



2026 HOKKAIDO SAPPORO  
OLYMPIC AND PARALYMPIC WINTER GAMES

2026北海道・札幌オリンピック・パラリンピック冬季競技大会

開催提案書 資料編



## ■ 試算の前提条件

### (1) 建設費の考え方

オリンピックで求められる規模を基に、実勢単価、過去事例単価等により積上げ

### (2) 大会運営費の考え方

平昌・北京の立候補ファイルの平均値を基本として設定

仮設費については積上げ

### (3) 招致経費の考え方

東京・長野の事例を参考に積上げ

### (4) 開催地負担額の考え方

○建設費 → 長野の事例を参考に開催地（市町）が1/4を負担

○大会運営費 → 組織委員会が負担するが、収入（平昌・北京の立候補ファイル平均値）を上回る分については、開催地（市町）が1/2を負担

### (5) インフレ率について

「中長期の経済財政に関する試算」（平成28年1月21日 内閣府）における消費者物価上昇率1.2%で2026年まで毎年推移すると見込み、2016年3月時点の試算額にインフレ率を掛けて算出

### (6) 為替レートについて

東京の立候補ファイルを参考に過去8年間の平均値（1\$=95円）として設定

# 開催経費

## 計画案1: スピードスケート会場が札幌の場合

		(単位: 億円)				(単位: 億円)	
		2026年時点		2016年試算		2014年調査時 (参考)	
		総額	開催地負担額	総額	開催地負担額	総額	開催地負担額
競技施設建設費		1,044	261	927	232	995	254
選手村・メディアセンター 等建設費		1,057	372	938	330	1,139	232
大会運営費		2,436	452	2,162	401	1,861	194
(内訳)	仮設費	819	304	727	270	613	168
	運営費	1,617	148	1,435	131	1,248	26
招致経費		28	17	25	15	50	35
開催経費合計		4,565	1,102	4,052	978	4,045	715

×インフレ率



開催経費を4,565億円と見込んでいます。  
(※開催地負担分としては1,102億円)

## 計画案2: スピードスケート会場が帯広の場合

		(単位: 億円)				(単位: 億円)	
		2026年時点		2016年試算		2014年調査時 (参考)	
		総額	開催地負担額	総額	開催地負担額	総額	開催地負担額
競技施設建設費		780	195	692	173	995	254
選手村・メディアセンター 等建設費		1,057	372	938	330	1,139	232
大会運営費		2,463	466	2,186	413	1,861	194
(内訳)	仮設費	846	318	751	282	613	168
	運営費	1,617	148	1,435	131	1,248	26
招致経費		28	17	25	15	50	35
開催経費合計		4,328	1,050	3,841	931	4,045	715

×インフレ率



開催経費を4,328億円と見込んでいます。  
(※開催地負担分としては1,050億円)

## 2016年ベースでの開催経費試算根拠

### 競技施設・非競技施設の前提条件

項目	オリリンピック・パラリンピックで求められる基準	規模・単価根拠	想定 後利用	想定 整備主体
競技施設	屋外競技施設 (カヌー、J・B、スノーボード) ・観客席数、運営施設等について規定	規模：左記基準 単価：札幌市土木単価、過去事例単価、業者ヒアリング単価	大会コース→スキー場 仮設 (観客席、運営施設等、コース運作物) →撤去	民間・開催地 組織委員会
	屋外競技施設 (カヌー、J・B、スノーボード) ・観客席数、運営施設等について規定	規模：左記基準 単価：札幌市土木単価、業者ヒアリング単価	大会コース→競技場 仮設 (観客席、運営施設等、コース運作物) →撤去	開催地 組織委員会
	屋外競技施設 (カヌー、J・B、スノーボード) ・観客席数、運営施設等について規定	規模：左記基準 単価：札幌市土木単価、過去事例単価、業者ヒアリング単価、JBC単価	競技施設→継続利用 仮設 (屋外観客席、運営施設等) →撤去	開催地 組織委員会
	屋内競技施設 (カヌー、J・B、スノーボード) ・観客席数、運営施設等について規定	規模：左記基準 単価：札幌市土木単価、過去事例単価、業者ヒアリング単価、JBC単価	競技施設→継続利用、多目的利用 仮設 (屋内観客席、運営施設等) →撤去	開催地 組織委員会
選手村	大会期間中の選手・関係者の宿泊施設と必要なサービスを提供。 ・収容人員：4,500人 ・主な施設：住居 (延床面積：105,000㎡)、駐車場 (600台) レストラン、病院、娯楽施設、銀行、美容室、花屋等 (延床面積：25,000㎡)	規模：左記基準 単価：札幌市土木単価、過去事例単価、業者ヒアリング単価、JBC単価	宿泊施設 (公：民=1:1) スポーツ・利便施設 (公・民) 仮設 (利便施設) →撤去	札幌市・民間 札幌市・民間 組織委員会
メディア村	メディアの宿泊施設としてホテル (三ツ星、四ツ星程度) を提供。 メディアの宿泊施設の内1新程度をメディアセンター近接地に整備。 (全10,000室程度を想定→1,000室を新設)	規模：左記基準 単価：札幌市土木単価、過去事例単価、業者ヒアリング単価、JBC単価	ホテル・居住施設 (公：民=1:1) 既存宿泊施設を利用	札幌市・民間 民間
メディアセンター	各種放送局の本部と活字メディアの作業場。 メディア村や主な競技会場、公共交通機関の近くに設置。 ・主な施設：メインプレスセンター (延床面積：20,000㎡) 放送センター (延床面積：43,000㎡) 物流 (延床面積：6,000㎡) サブライツ (延床面積：9,000㎡) ※市外会場毎	規模：左記基準 単価：札幌市土木単価、過去事例単価、業者ヒアリング単価、JBC単価	展示場 商業施設等 仮設→撤去 既存体育施設等を利用 不足分は仮設→撤去	札幌市 民間 組織委員会 組織委員会

### 経費の前提条件

項目	試算の考え方
交通関係の関連施設	既存道路を大会専用レーンにすることを想定 (費用は計上しない) 仮設費：橋上げによる 収支：平島・北郊の立候補ファイル提出時点の平均値を採用 ※一部、会場使用料等については橋上げ、セキュリティ費は昨今の世界情勢を考慮し平均値の2倍とした。 収支不足額：自治体助成を想定 為替レート：過去8年間の平均値 (1\$=95円) を想定 ※東京の立候補ファイルを参考に
大会運営費	東京・長野の事例を参考に積み上げ
招致経費	札幌市負担分として計上 (後利用として民間への売却又は直接による収入については経費に含まないこととする)
用地費	建設工業経営研究会の標準建築費指数を参照 ※2016年3月時点の単価への置き換え
宿泊費	選手、IOC役員等の宿泊費については組織委員会が全額負担 (大会運営費の中の会場運営費に内包)、メディアの宿泊費は各メディアが全額負担 デフレーター
デフレーター	JBC単価 (実勢単価) 建設当時の単価にデフレーターを掛け2016年3月時点の単価として設定 過去事例単価 札幌市土木単価 業者ヒアリング単価 時価として設定しているためデフレーターは設定しない
費用負担	競技施設 選手村、メディア村 メディアセンター 大会運営費 ※JBC単価…一般財団法人建設物価調査会の実勢物価調査単価 ※平島・北郊の支出の平均値を参照し組織委員会が負担 ※ただし、関連費を越えた分は長野の事例を参考に開催地に開催地が1/2を負担

施設整備費（内訳）

(単位：億円)

競技名	2014年度箇所				2016年計画案1				2016年計画案2			
	本設		仮設 (大倉建設費相当分)		本設		仮設 (大倉建設費相当分)		本設		仮設 (大倉建設費相当分)	
	開催地	民間	計	民間	開催地	民間	計	民間	開催地	民間	計	民間
アルペン	0	0	65	12	4	4	50	4	4	4	4	4
フリースタイル・スノーボード	0	0	121	17	1	1	170	1	1	1	1	1
クロスカントリー	0	0	52	0	1	1	73	1	1	1	1	1
ジャンプ(ラージ)	51	39	90	0	42	42	67	42	42	42	25	0
ジャンプ(ノーマル)	46	43	89	0	43	43	68	43	43	43	25	0
ノルディック複合	0	0	0	0	1	1	44	43	1	43	43	0
ボブスレー・スケルトン・リュージュ	105	57	162	0	134	134	178	44	134	134	44	0
バイアスロン	254	53	54	0	2	2	65	63	170.5	2	63	0
スピードスケート	217	0	217	0	257	257	270	13	22	22	28	0
フィギュアスケート・ショートトラック	213	0	213	0	250	250	272	22	250	250	22	0
アイスホッケー(男子)	166	0	166	0	38	38	69	31	38	38	31	0
アイスホッケー(女子)	108	0	108	0	130	130	154	24	130	130	24	0
カーリング	59	0	59	0	19	19	26	7	19	19	7	0
小計	254	401	1,396	29	922	922	1,506	579	173	687	594	5
メディアセンター	182	96	355	77	151	151	238	57	151	151	57	30
メディアセンターニセコ	0	108	108	0	0	0	12	12	0	0	12	0
メディアセンター帯広	232	0	0	0	246	0	0	0	246	0	9	0
メディアア村	32	0	296	264	63	63	140	0	63	63	0	77
選手村	226	8	404	170	278	278	612	79	278	278	79	255
用地取得費	0	0	188	188	84	84	84	0	84	84	0	0
小計	232	212	1,351	699	576	576	1,086	148	330	576	157	362
施設整備費(計)	486	613	2,747	728	1,498	1,498	2,592	727	503	1,263	751	367

冬季オリパラの開催がない場合でも  
発生する通常の施設更新費

(単位：億円)

大倉山(ヤリ) 競技場	23
宮の森(ヤリ) 競技場	19
真駒内屋外競技場	149
真駒内屋内競技場	152
月寒体育館	68
合計	411

会場別施設整備費（内訳）

（単位：億円）

種別/競技	種目	基準（一部）	運動広床面積	候補地 場所	後利用	（単位：億円）
アルペン	パラレル クロス スロープ モーグル フリースタイル スキー・スノーボード	標高800～1,100m	仮設 13,600㎡	ニセコ 本設 6 内訳：コース建設24.0億 敷地取得2.9億	スキーコースとして利用することを想定 合計 50	2014年（合計） 65
		全長400～700m 全長650～1,200m 全長1,000m程度 全長200～270m 全長120～150m 助走25' 距離64m以上			サッポロチネイスキー場 札幌国際スキー場 さっぽろばんげいスキー場 ※距離は札幌市域、ばんげいの2か前で行った。 本設 2 内訳：コース建設20.4億 建物46.9億 敷地取得62.1億	スキーコースとして利用するが、構築物については、大会後は撤去の想定。 合計 170
クロスカントリー	クロスカントリー	固定3,000席 立見10,000席	仮設 16,100㎡	白旗山競技場 本設 1 内訳：敷地1.3億	クロスカントリーコースとして引き続き利用を想定 合計 73	2014年（合計） 52
		固定3,000席 立見1～1.5万席	既存(運営本部) 1,900㎡ 仮設 10,900㎡	大倉山ジャンプ競技場 本設 42 内訳：ジャンプ台建設11.0億 照明・仮設設備6.5億 立体駐車場15.3億	ジャンプ競技場として引き続き利用を想定 合計 67	2014年（合計） 90
ジャンプ(ラージ)	ジャンプ(ノーマル)	固定3,000席 立見1～1.5万席	本設 1,900㎡ 仮設 10,900㎡	富の森ジャンプ競技場 本設 43 内訳：建物6.7億 ジャンプ台建設11.0億 照明・仮設設備3.7億 立体駐車場15.3億	ジャンプ競技場として引き続き利用を想定 合計 68	2014年（合計） 82
		クロカン・ジャンプに両用	仮設 12,600㎡	円山総合運動場 (仮設) 本設 1 内訳：敷地0.2億	夏期は陸上、テニス、野球場として利用し、冬期は、仮設のクロスカントリーコースとしての利用を想定 合計 44	2014年（合計） 0
ボブスレー スケルトン リュージュ	ボブスレー スケルトン リュージュ	固定1,000席 立見10,000席 1,000m以上	仮設 22,400㎡	サッポロチネイスキー場 (運轉) 本設 154 内訳：コース建設101.5億 コース建設8.9億 照明・仮設3.3億	スキー場と一体化した施設として、観客も利用できる施設を想定 合計 178	2014年（合計） 162
		固定5～7千席 立見1～1.5万席	仮設 17,300㎡	西岡バイアスロン競技場 本設 2 内訳：照明・仮設設備20.6億 敷地取得1.7億 建物50.9億	バイアスロン競技場として引き続き利用を想定 合計 63	2014年（合計） 54

(単位：億円)

種別	競技	種目	基準(一部)	建物延床面積	整備期 概算	後利用	(単位：億円)
スピードスケート			6,000席 リンク120m×72m	本設 34,500㎡	257	270	217
				仮設 5,800㎡			
内訳：建物本体197.4億 水費設備11.0億 一般外構5.8億 鉄道設備5.5億 創設5.3億					2014年(合計)		
アイスホッケー			6,000席 リンク120m×72m	既設 19,218㎡	22	50	217
				仮設 9,500㎡			
内訳：建物16.8億 リンク16.2億 外構2.0億 創設1.6億 鉄道設備5.8億					2014年(合計)		
フィギュアスケート ショートトラック			12,000席 リンク260m×30m	本設 35,000㎡	250	272	213
				仮設 10,300㎡			
内訳：建物本体200.2億 水費設備5.5億 鉄道設備5.8億 創設9.7億					2014年(合計)		
アイスホッケー	男子		10,000席 リンク260m×30m	既設 18,883㎡	38	68	166
				仮設 12,000㎡			
内訳：建物30.8億 鉄道設備5.8億 水費設備5.5億 創設9.7億					2014年(合計)		
アイスホッケー	女子		6,000席 リンク260m×30m	本設 17,000㎡	130	154	108
				仮設 11,000㎡			
内訳：建物本体37.3億 鉄道設備5.8億 水費設備5.5億 創設5.2億					2014年(合計)		
カーリング			3,000席	既設 30,000㎡	19	26	59
				仮設 2,860㎡			
内訳：建物20.93億 水費設備5.0億 創設1.7億					2014年(合計)		

屋内競技施設

(単位：億円)

種別	競技	種目	基準(一部)	建物延床面積	候補地 場所	後利用
非 競 技 施 設	メディアセンター		延床面積 マイナリ&モカ 20,000㎡ 放送機カ 43,000㎡ プレス 1,000㎡ 放送 5,000㎡ 計69,000㎡	本設 40,000㎡ 仮設 29,000㎡	共進会運動地 (新設) 公共30,000㎡ 民間10,000㎡ 仮設29,000㎡ 本設 181 内訳：建設費157.3億 一般外費5.1億	共進会連の展示機能の継承と一部を商業施設することを想定 合計 238 2014時(合計) 395
			メディアセンター (ニセコ)	延床面積 9,000㎡	既設 5,925㎡ 仮設 3,075㎡	倶利伽羅総合体育館 (仮設) 本設 0 内訳：建設費5.3億 建設費5.5億
	メディアセンター (帯広) ※スピードスケート会場が帯広の場合	延床面積 9,000㎡	既設 9,000㎡	帯広の森体育施設 (仮設) 本設 0 内訳：建設費0.6億	大会後は現状維持し、引き続き体育館として利用することを想定 合計 9 2014時(合計) 0	
	メディアア村	1,000人規模	本設 41,000㎡	共進会運動地近接地(ホテル+居住施設) (新設) 公共20,500㎡ 民間20,500㎡ 本設 140 内訳：建設費126.3億 一般外費0.6億	ホテルまたは居住施設として使用することを想定 合計 140 2014時(合計) 286	
選手村	4,500人規模	本設 116,000㎡ 仮設 14,000㎡	札幌トウ△隣接地 (新設) 暫泊施設：公共52,500㎡ 民間52,500㎡ 利便施設：公共7,000㎡ 民間4,000㎡ 仮設14,000㎡ 本設 533 内訳：建設費456.6億 一般外費20.1億	スポーツと集客機能が共存する最先端の環境技術を導入した「人と環境にやさしいスポーツビレッジ」とすることを想定 合計 79 2014時(合計) 404		

大会運営費（内訳）

（単位：億円）

■収入

項目	立候補ファイナル※1			算出方法
	平昌2018	北京2022	平昌・北京平均	
IOC負担金（テレビ放映権）	335.2	321.5	328.35	
トップスポンサーシップ	152.4	149.5	150.95	
ローカルスポンサーシップ	342.0	583.1	462.55	
オフィシャルサブライヤー	133.0	43.4	88.20	平昌と北京の平均値
チケット販売	230.0	112.2	171.10	
ライセンスング	33.3	76.3	54.80	
くじ等	41.8	7.1	24.45	
助成金（国・自治体）	123.5	89.7	106.60	不足額
その他	63.4	97.5	80.45	平昌と北京の平均値
収入合計	1,454.6	1,480.3	1,467.5	

■支出

仮設工事費	185.7	187.4	186.55	727	751	試算（仮設）
会場運営費	114.0	97.9	105.95	229	229	平昌と北京の平均値＋会場使用料等※2
大会スタッフ	179.8	133.2	156.50	157	157	
情報・通信	361.2	244.0	302.60	303	303	平昌と北京の平均値
式典・文化	87.4	67.4	77.40	77	77	
医療サービス	19.0	23.8	21.40	21	21	
ケータリング	28.5	26.8	27.65	28	28	
輸送	70.3	78.2	74.25	74	74	
セキュリティ	31.3	29.9	30.60	61	61	平昌と北京の平均値の2倍
パラリンピック競技大会	57.7	75.3	66.50	67	67	
広告宣伝	52.3	60.0	56.15	56	56	
管理・テストイベント・会議	112.9	140.2	126.55	127	127	平昌と北京の平均値
その他	154.4	181.6	168.00	168	168	
予備費	0.0	134.7	67.35	67	67	
支出合計	1,454.5	1,480.4	1,467.5	2,162	2,186	

※1 1ドル＝96円（過去8年間の平均レート 東京2020立候補ファイナルのレート設定を参考）

※2 会場使用料は屋外・屋内競技施設及び選手村の使用料を想定